

健康文化

大学紹介：健康と医療の発展を支える人材を育成する

野田 明子

少子高齢化の進行に伴う国民総医療費の増大の結果、国民皆保険制度は疲弊をきたし、その対策として、在宅医療、地域連携への誘導が図られています。一方、医療機関では高度専門技術と救急救命機能が求められています。医療の現場では、病気の前段階を対象とした「予防」、そして「健康」を維持するための新たな薬物や医療技術の開発が望まれ、それを担う人材育成の重要性も高まっています。

このような社会的要請の中、中部大学では2006年に生命健康科学部生命医科学科と保健看護学科を設立し、昨年のはじめての卒業生を送り出しました。そして、本年度新たに、臨床工学科・理学療法学科・作業療法学科を設立しました。生命医科学科では健康維持と疾病予防に役立つ医科学と生命科学の学識と技術

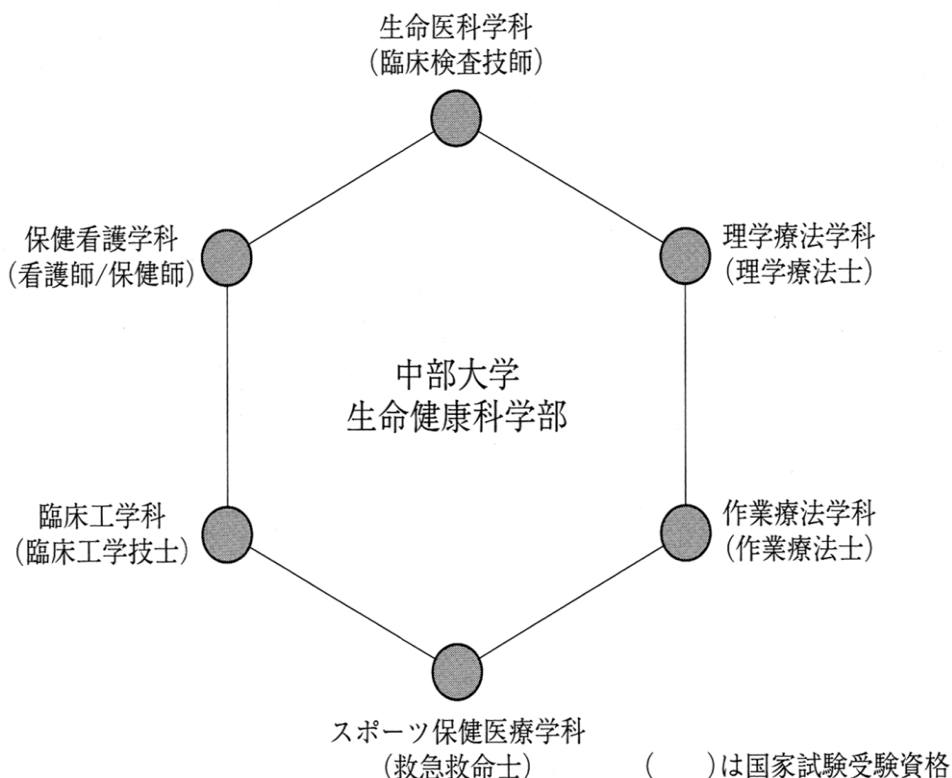


図1 中部大学生命健康科学部の6つの学科と国家試験受験資格

を、保健看護学科では保健看護の専門の学識と看護技術を修得します。理学療法学科では最新の理学療法を基礎とした運動指導を、作業療法学科では先端的作業療法を学び、臨床工学科では現場で求められる臨床工学の基盤的知識を修得します。生命健康科学部は、的確な健康・医療上の知識・技能と問題意識を持ち、健康・医療に関わるさまざまな専門家との連携を可能にする5つの新たな専門分野の人材育成を目標としています。さらに、2011年4月に生命健康科学部にスポーツ保健医療学科が誕生する予定です。スポーツ保健医療学科では健康運動を的確に処方し、安全かつ効果的に運動を指導できる専門家の育成を目指す



図2 学園創立者 三浦幸平先生

とともに保健・医療・福祉施設などで活躍する人材を育成します(図1)。中部大学は7学部27学科、大学院4研究科12専攻からなり、2010年度の大学学生総数は約9700名となっています。そのうち、生命健康科学部は学生数914名で、75名の教員(学部長:伊藤康彦教授)とで構成されています。中部大学は工学部の単科大学から出発し、時代の流れに先駆けた学問領域の拡充に力を注ぎ、現在では自然・社会・人文科学分野におけるほとんどの学問を備えるに至っています。中部大学の教育の原点は“不言実行、あてになる人間”の育成です(図2)。

私は2010年1月より、この中部大学生命健康科学部生命医科学科/臨床検査技術教育・実習センター教授に就任しました。2009年12月まで名古屋大学で学んだ多くの臨床・教育・研究の経験を活かし、現在の医療のニーズに対応できる新たな教育の場で学生教育に努力していく所存です。私の専門は臨床生理学と睡眠医学です。今後も臨床・研究を継続し、最先端の医療を学生に教育していきたいと考えています。睡眠医療学科も近い将来生命健康科学部の学科になることを願っています。

生命医科学科は、「医科学と生命科学の基礎」と「生命科学技術」を基盤とする新しい学問分野を開拓しています。生命医科学科では、しっかりした問題意識を持ちながら、生命科学技術と他の科学技術を活用する能力を修得し、疾病予防法や診断技術の開発、健康増進に貢献する研究者や技術者、教育者、さらに予防健康管理に携わる新たな専門家の育成を目標としています。生命医科学の知識と技術が求められる分野は、今後、医療関連領域だけに限らず、さまざま

まな産業に広がり、未来を開拓できる医療人の育成が期待されています。

2009年に設立された中部大学臨床検査技術教育・実習センターは、臨床教育を充実させ、診療における生体情報の提供、検査法および検査機器の開発、医工学連携、研究や教育ができる臨床検査技師の育成、を目指しています。臨床検査技術教育・実習センターは、実習施設との良好な連携を保ち、効果的に実習を行なうことを目的として設置されています。実際の医療現場で学ぶ臨地実習を円滑に進めるため、学生と実習施設の間に立って連絡や調整などのコーディネート業務も行います。生命医科学科との連携のもと、実習施設と継続的で緊密な連絡調整の遂行を図るとともに、実習施設の開拓にも努めていきます。臨地実習は臨床検査学を学ぶ上で、非常に重要な位置づけとなっています。臨床検査技師は、病院内における検査という枠にとらわれず、研究職・教育職・一般企業など様々な場において活躍することが求められ、その活躍の場が今後一層広がるものと考えています。知識と技術を総動員して医療にかかわり、検査することの喜びや検査で得られた生体情報が診断および治療につながる達成感を体験できる臨地実習の場は学習の宝庫となります。臨地実習施設では、直接患者や医療従事者に接する幅広い実習を効果的に推進するために、臨床検査技術教育・実習センターと実習施設との連携のもとで、実習指導体制が整備されています。全国に例を見ない臨床検査技術教育・実習センターでは、今後、各実習施設の学生指導上のニーズに応え、指導者の資質を高め、また地域連携を推進する取り組みも展開していく予定です。

大学は教育研究力をもとに医療機関と多様な連携協力のネットワークを張り、21世紀型の高度な医療専門職を継続的に養成することに専念する必要があります。特に、高齢社会に関わる医療は、それぞれの地域社会が直面している具体的な問題を多面的に解決する能力と意志の持ち主を求めています。そのような背景の下、中部大学生命健康科学部は、近隣の基幹医療施設と連携し、学生の臨床実習、病院職員の研修、技術協力、医療活動協力、共同研究等を相互に協力して多元的に発展させることを目指し、地域から信頼を得られるよう努力してまいります。

医療従事者は専門認定取得が要求されますが、社会的に能力ある専門職として活躍するためには、研究能力も要求されます。昨年度、生命医科学科の学生は16名が臨床検査国家試験を受験して全員合格という嬉しい結果が得られました。臨床検査技師国家試験に合格させることがまず第一となりますが、その上で、臨床検査技師の資格を取得した研究者を創出することが生命健康科学部生命医科学科の使命でもあります。

科学的創造性と探究心、使命感と責任感、協調性のある豊かな人間性を持ち、高度専門技術の習得と指導、地域交流、国際交流などを通じ社会に貢献できる専門職を育てていくことが教員として大切と思います。

以下は、中部大学山下興亜学長があるお寺でお聞きになった3つの心得です。

1. 本気ですれば、大抵のことができる
2. 本気ですれば、何事も面白い
3. 本気でしていると、誰かが助けてくれる

日々、学生に刺激を与え、かつサポートし、これらの心得を学生が大学生活で感じ取ることができるような環境作りに努力していきたいと思います。

今後ともご指導、ご支援の程、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(中部大学生命健康科学部生命医科学科/  
臨床検査技術教育・実習センター 教授)